

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>・理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針と運営理念を事務所内とホーム内各ユニットごとに掲示。また、職員一人ひとりに携帯させ周知徹底を図れるよう取り組んでいる。	定例の「おもてなし会議」の中で、グループワークの実施により、スタッフ間で方針の共有を図っています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき、地域の防災訓練等へ参加し、地域の方々と交流を持っている。また、散髪や買い物等も地域の店の利用をこころがけている。	地域の行事や消防訓練など、自治会からのお誘いには積極的に参加されています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの個別の相談などに答える事もある。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、日常の取り組みの報告を行っている。メンバーからは地域の情報や取り組みへのアドバイスをいただきサービスに活かしている。	様々なご意見を聞くことができ、運営上プラスとなることがあれば積極的に反映できるようにしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	各区の包括支援センターと入所相談等の連携は取れている。	支援困難ケースに対する対応や成年後見制度の申し立て支援に関する事を視野に入れて取り組んでおられます。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに沿って研修を行っている。また、見守りや共に行動する事により拘束・抑制をしない対応を行っている。	身体拘束にあたりそうな事案については運営推進会議にはかった上で、進めるようにしています。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2度研修を行うよう年間の研修予定に組み入れている。		

8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在は対象者はいないが、過去同法人内のグループホームで成年後見制度の利用者を支援した経験者が職員内にいる。</p>		
9	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、必ず家族等と重要事項説明書、契約書等の読みあわせを行い、都度疑問点や不安点に対し、分かりやすく説明し、理解を図っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の日常の中での愚痴等を聞く姿勢を職員は持つよう心がけている。その中から、必要な事は、改善を図っている。</p>	<p>苦情に対する情報については運営推進会にはかった上で対応を行っています。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日々のミーティングや定期的なカンファレンス・職員会議で職員からの意見を聞いている。内容によっては全職員からアンケートを取ったりもしている。</p>	<p>スタッフの意見を取り入れられるよう会議やアンケート等の実施により取り入れる工夫をされています。</p>
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制を行っており、半期に1度自己目標をたて取り組み、それに対して、評価を行っている。また、職員と日常的に話せる（世間話も含め）雰囲気があり、そういった中で相互理解に努めている。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>理事長を中心にフィロソフィ勉強会の実施。新人職員にはプリセプター制度を設け、育成に取り組んでいる。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同じ区内のグループホームで月1回連絡会を開催し、情報交換を行っている。</p>	

## 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談や面接の際に本人と会い、本人は納得しているのか、何が不安なのか等を把握するようにしている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談や本人面接の際に、相談に至るまでの家族の関わりや苦労などを聴くようにしている。又、本人を前に言いにくいことがあれば、別の機会を設ける等行っている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所相談の段階で、グループホーム以外での対応も視野に入れ相談に応じている。必要に応じ、他サービス事業所への紹介を行っている。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ホームの理念でも掲げているように、職員は利用者と共に生活を楽しむ事に努めている。特に家事など利用者の経験を生かせる場面では、利用者に教えてもらうこともよくある。</p>		
19	<p>本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時などを中心に利用者の様子を伝え、現在の状態を理解（把握）していただけるよう努めている。又、その中で協力していただきたい事があれば伝え、ケアの一翼を担っている意識を持ち続けてもらえるよう努めている。</p>		
20	8 <p>馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの方が気軽にホームに訪れ、本人とコミュニケーションをとれるよう家族にも協力を仰いでいる。</p>	<p>ホーム側が積極的に働きかけをし、地域での関係が途切れないよう家族に呼びかけておられます。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士で解決できること、できないことを職員は見極めるようにしている。大きなトラブルに発展しそうな時は、職員が声かけ等行い円滑な関係に努めている。又、重度な認知症状等でコミュニケーション困難な方にも職員が間に入り円滑な関係に努めている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後であっても、特養や老健への入所申し込み等の相談があれば支援していく。</p>		

## その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望・要望の訴えがある方には、応えられるよう努めている。又、訴えが困難な方でも、普段の口癖や行動などから要望をとらえるよう心がけたり、家族への協力を依頼してりしている。</p>	<p>入居時はもとより、計画の変更に際しても、意向の確認をなされ、本人本位に検討がなされています。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>得意なことや昔の仕事など、アセスメントで聞き出し、そういった暮らしを活かせるよう取り組んでいる。</p>	/	/
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>健康観察はもちろん、生活状況を観察し、一人ひとりにあった声掛けや支援ができるよう心掛けている。</p>	/	/
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見を踏まえ、計画作成前に、カンファレンスを行い、他職員間で意見を出し合い、介護計画に取り入れている。</p>	<p>職員間で会議を開催し、本人や家族の意向を踏まえた計画作成に取り組まれています。</p>	<p>家族も計画作成に参加できるような会議も検討してみたいかがでしょうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>プライバシーに考慮しながらも、居室の訪室やコミュニケーションを図り、1日の状態把握に努める。又、職員間で統一した支援ができるよう日誌や共通理解帳、ミーティングを活用し、意見交換をしている。</p>	/	/
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が通院できない場合の支援や家族との外出、外泊など要望に応えられるよう日頃より、コミュニケーションを図るよう努めている。</p>	/	/
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者の希望等で、地域の子育て支援へ参加している。老人会の誘いで小学校の昔遊びの授業にも参加。民謡ボランティアは月1回の訪問が定着。</p>	/	/

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>現在全ての入居者が当事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医としているが、家族や本人の同意を得ている。家族等の希望で認知症外来への定期通院の支援も行っている。</p>	<p>協力医療機関のみならず、希望すれば外部の医療機関への受診支援も実施しています。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>法人内の看護職員や、週2回訪問のある訪問看護の看護師や主治医と連携をとり支援にあたっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した際には、面会に多く行き安心できるように努めると同時に、病院との情報交換を行い退院時期等の話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルについては現段階では行ってはいないが、重度化している方へ出来ること、出来ないことの説明を行っている。</p>	<p>法人内には多種多様な事業があり、それらの連携の下対応されています。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを整備し施行すると共に、随時研修会を行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災については避難訓練を行い、近隣の方に緊急通報装置の協力者にもなってもらっている。地域の防災訓練にも参加させてもらっている。</p>	<p>地域の中で行われる防災訓練に参加され、定期的な訓練もホームで実施しています。</p>	

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人の訴える言葉の裏にあるものを理解する様心掛け、受容的でさりげない対応を行っている。</p>	<p>一人になりたいときには、視線を避けることができるように工夫しています。部屋の中にトイレがあることが強みです。排泄の声かけ時は「トイレ」という言葉を言わないようにしています。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段から入居者が選択できる声かけを心がけている。又、時々主菜や副菜の選択メニューの日を設けたりし、自己決定を促す機会を作っている。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望があればいつでも散歩、買物等出掛けられるよう、それぞれの入居者のペースで暮らせるように支援している。食器洗いなどを中心としたキッチンの使用も自由になっている。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者の希望（意思決定ができない人は家族決定）に合わせ近所の理美容院へ出かけている。</p>		
40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備の際は、入居者とともに切る、洗う、盛り付けるなど一緒に行い、後片付けは自己の食器は自己で行うよう声掛けし見守っている。又、見守りの必要な方で職員も食事をし、さりげなく介助できるようにしている。</p>	<p>ユニットによってそれぞれの特性を生かして支援に取り組んでおられます。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、基本的に法人内栄養士が栄養バランスを考えたてている。食事摂取量、水分量とも必要に応じ、記録及び、目標食事・水分量を決め一人ひとりに合わせ取り組んでいる。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の能力に応じ、声掛けや介助を行い、歯磨きや義歯洗浄にもれがないよう努め、口腔内の異常にも注意を払っている。又、週1回の歯科往診で医師からの観察、必要に応じての助言や指示をもらっている。</p>		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿・便意の曖昧な方でも、時間やしぐさを見て、トイレ誘導を行っている。又、本人が安心するという事で紙パンツを利用している方でもトイレでの排泄が出来るように徹底している。</p>	<p>必要な方には個別に時間を見て排泄ができるように支援し、随時、状況により排泄用品の必要性を検討しています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>なるべく薬に頼らず、毎日の散歩や野菜・牛乳・果物・水分の摂取を呼びかけている。また、運動が困難な方にも、トイレ介助時時間をかけ、腹部マッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>おむね週で3回を基本としているが、これにこだわらず本人の希望に合わせて日の変更を行っている。希望の多い方にもできるだけ応じるように努めている。</p>	<p>曜日の固定等は行っておらず、個々の状況や可能な限り希望に合わせて支援しています。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>リビングや自室、必要に応じて外に出て、気分転換を行っている。昼間の活動時間を（散歩など）を増やし、夜間の睡眠につなげる。又、眠れない方には温かいものを提供するなどおこなっている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬については、ケース記録に服用の有無を記録している。又、薬局からの薬の説明書個別ケースに貼付し、全職員が把握できるようにしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>掃除や洗濯、調理等日常生活の中で、得意な事を活かした活動ができるような場面作りを心がけている。又、買物等の外出、法人内他施設でのレクリエーション参加、外出行事等で気分転換を図っている。</p>		

49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>理美容院、買物等個人や少人数で出かける支援を行っている。</p>	<p>入居されても行きつけの散髪屋に出掛けることができる事や、馴染みの場所への外出も行えます。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理ができる人には自分で行ってもらっている。できない方は預り管理をし、買物等の際本人に渡して払ってもらう等している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話に対しては希望時すぐに対応し、ダイヤルの番号を押す等の援助を行っている。また、手紙等書く機会を設けたりし、大切な人との交流が途絶えないようにしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気になるよう、装飾などは季節感を考慮し、入居者と共に考えるよう心がけている。又、日のあたるところはカーテンをつけたり、テレビやラジオ、BGMの音量調節など、落ち着いて生活出来る様配慮している。</p>	<p>ユニットによって、それぞれの好みがあり、それに合わせた環境作りができるように支援しています。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングや食堂でくつろげるようにしている。そこで気の合った方同士で過ごしたり、一人になり日向ぼっこし過ごしている姿もある。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具、生活用品、食器も使い慣れたものを持ち込んでもらい使用してもらっている。</p>	<p>持ち込みは可能で、馴染みのものを使って頂いています。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれに手すりの設置など、生活空間に工夫している。</p>		

アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている		ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない